世界との“つながり”を意識し、SDGs を自分ごとにする

氏名：及川　英恵　　学校名：宮城県仙台市　私立　尚絅学院高等学校

担当教科：英語　　実践教科：学校設定科目　PBL Ⅱ(異文化理解)

時間数：20 時間　　対象学年：2 学年　　人数：27 名

【実践概要】

【1】単元(活動)名：「世界中の仲間と共にSDGs達成を目指すには？」

【2】単元目標

・SDGsが開発途上国だけの目標ではなく自分たちの生活にも大いに関わっていることを理解できる。
・アフリカをはじめとする世界中の国々の現状や課題点を知り、その背景を考察することができる。
・グループワークを通して、相手の意見を聞いて考えを深めたり、自分の意見を発表したりできる。
・アフリカと自身の“つながり”に気付き、自分ごととして世界の諸問題を捉えることができる。
・アフリカ諸国の多様性を知ると共に、日本とのちがいや共通点を発見することができる。
・自身がもつ固定観念や偏見に気付き、正しく世界を理解することができる。
・相手を真に幸せにする支援の在り方について考え、実践することができる。

関連する学習指導要領上の目標：

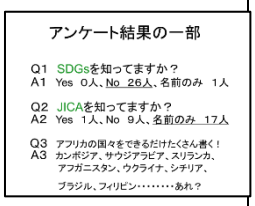
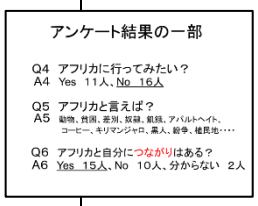
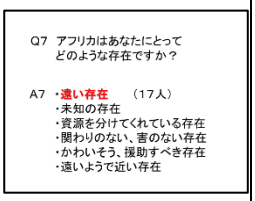
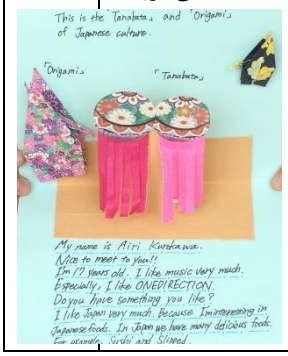
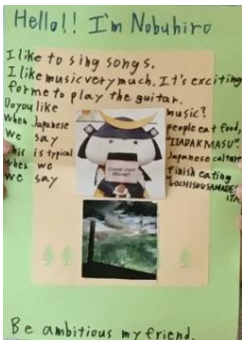
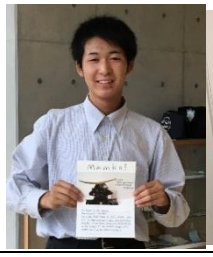
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、情報を集め、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

【3】単元の評価規準	①知識及び技能	多様な媒体から情報を収集し、分析したり、比較したりする中で物ごとを多面的かつ正しく理解し、考察することができる。（SDGs 達成に向けて自ら調べ、世界の現状を知る）
	②思考力、判断力、表現力等	様々な問いに対して常に自分の考えを持ち、他者との対話や議論を通して深め、まとめたり、発表したりできる。（SDGs 達成に向けて背景を考察し、解決策を考える）
	③学びに向かう力、人間性等	世界や身近で起きている問題を自分ごととして捉え、積極的に知ろうとし、解決に向けて周囲と協働して取り組むことができる。（SDGs 達成に向けて仲間と共に主体的に行動する）

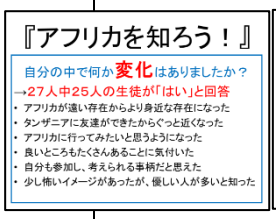
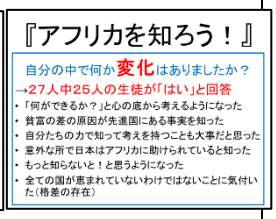
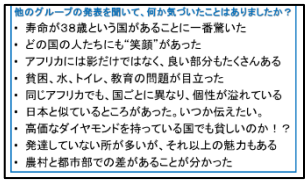
【4】 単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 PBLⅡ（異文化理解）を選択した生徒は、最終的には各自の問題意識をもとに探究テーマを設定し、プロジェクトを企画・実行していき、年度末にはプレゼンテーションを行うことが求められる。そのため、前半では、生徒が自分で深めたいと思う問題意識と出会えるように、主にアフリカを切り口にして様々な問いを投げかけ、グループワークで意見交換ができるようにした。 事前アンケートを行った結果、生徒の中にSDGsを知っている人はいなかった。アフリカについての知識も非常に乏しく、偏ったイメージを持っていた。高校2年生は、2030年に28歳になり、社会を支える存在となる。彼らには世界の状況を正しく認識し、SDGsは開発途上国だけの目標ではなく、自分たちの目標でもあり、世界中の人々と協力して主体的に関わっていく必要があることを実感させたいと考えた。そして、「無関係」から「つながりのある存在」として世界を捉え、自身の生活や考え方を見直すきっかけとし、さらに27名が周囲を巻き込む中心的な存在へと成長してほしいと願って段階的に授業を行った。 【単元の意義】 「自分には関係ない」と思った瞬間に、どんなに近くにいる相手の顔も見えなくなり、声も聞こえなくなると思う。つまり、周囲に助けを必要としている相手がいることにも気づけなくなる。支援以前の問題だ。それでは、SDGs達成を担う存在にはなりえない。 本単元は、「アフリカは遠い存在」と考えている生徒たちの世界との心の距離感を変えたいという思いで行った。また、「アフリカ＝かわいそう＝支援が必要」という単純な図式も壊したかった。そのため、主に次のようなステップで授業を組んだ。 自分が世界に無関心だったことに気付く→SDGsって何だろう→世界の課題解決の必要性を体感する→ものの見方や価値観の違いに気付く→日本とアフリカのつながりを知る→タンザニアの子ども達とつながる→アフリカの多様性に気付く→課題だけではなく素晴らしいところにも目を向ける→自身の固定観念や偏見に気付く→タンザニアと日本の抱える課題を確認する→SDGsは開発途上国だけの問題ではないと知る→幸せとは何かを考える→相手の幸せを実現する支援の在り方を考える→身近な人を幸せにする方法を考える 【生徒観】 平和、貧困、人権、自然環境、難民、異文化、人種差別などのトピックに関心のある生徒27名（女子24名、男子3名）で構成されたクラスである。海外渡航経験者が7名おり、他の生徒も積極的に海外に行ってみたいと考えているが、興味はあっても実際に世界の現状について深く調べたり、考えたりした経験はあまりなかったようだ。知らないこと、考えたことのないテーマばかりだったためか、危機感をもって意欲的に学ぶ姿勢があった。しかし、人前で積極的に発言することに不慣れな生徒が多く、また4つのクラスから集まってできたクラスだということもあり、最初はグループワークや議論で遠慮が見られ、円滑に進めるために仕掛けと時間を要した。 【指導観】 授業が単なる知識の伝達にならないように、どうやって生徒の心を揺さぶることができるか常に考えた。生徒たちが自分たちで「なぜだろう」「知りたい」と思えるように効果的に写真や映像を使用したり、あえて結論が出ない問いを投げかけたりした。また、協働で課題解決に向けて取り組む土台でもあるグループでの対話や表現活動も多く取り入れた。生徒の多様な意見は尊重するようにし、生徒たちにも互いの意見を否定せずにまずは聞くことを大切にさせた。 また、タンザニアの生徒とカードをやり取りしたことも、その後の学習に大きな影響を与えたように思う。初めて英語で手紙を書いた生徒がほとんどで、四苦八苦していたがとても生き生きしていた。タンザニアから届いた手紙に感動して涙ぐむ生徒もいた。遠く離れていても、想像力を働かせ相手を思いやる体験は、生徒の心に一生残るのだと改めて思った。実感のある交流は、学習の一番の動機付けになる可能性がある。

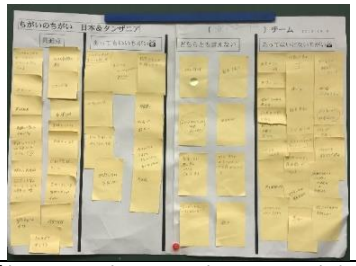
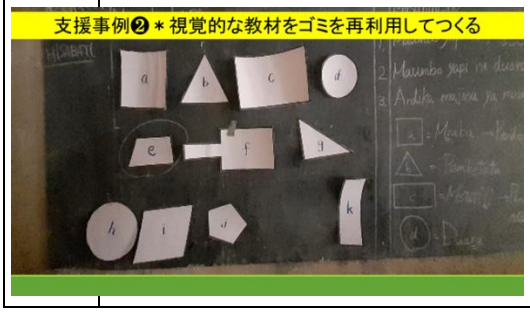
6. 単元計画（全 20 時間）

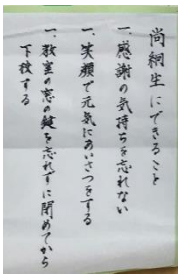
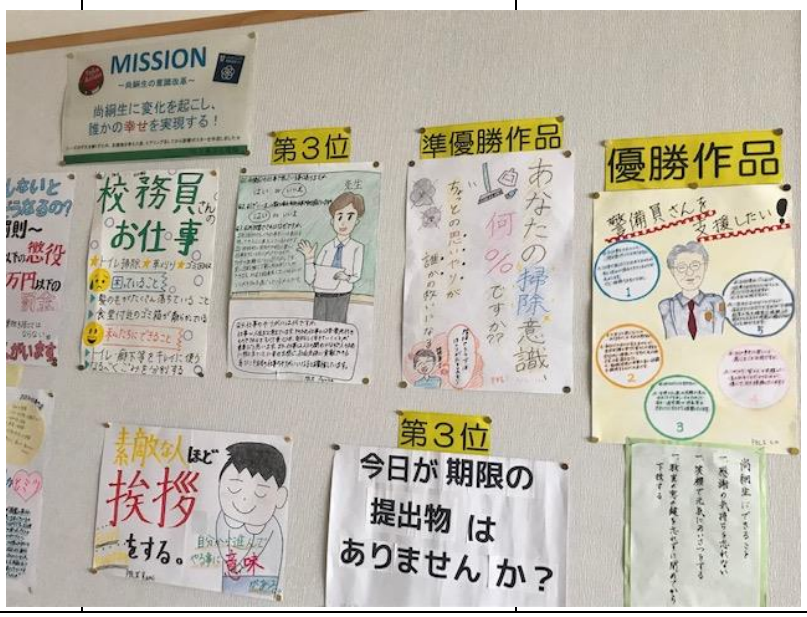
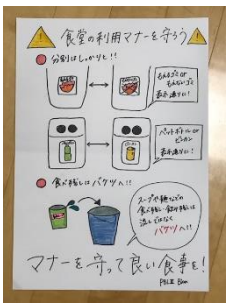
時	『小単元名』 学習のねらい	学習活動	資料など
1	『アフリカについて知っていることは？』 **●アンケート調査** 生徒の予備知識･潜在意識･考え･疑問点を確認する。 ●紙風船づくり	・アンケートは、他者との相談・資料閲覧なしで取り組む。 ・紙風船を折り紙で作り、そこに自分の大切な人、もの、夢を書く。何に使うかはまだ話さない。（個人作業）	・アンケート用紙 ・アフリカ白地図 ・折り紙
2	『「世界難民の日」を自分ごとに』 アジアに目を向けることで、身近な問題でさえも知らないこと、無頓着であったことに気付く。 	・紙風船を互いに潰し合い、奪われる気持ち、奪う気持ちを疑似体験する。感想を言い合う。 ・フォトランゲージで両親を運ぶロヒンギャの青年を見せる。心情やその背景を想像してから、事実を学ぶ。 ・動画にて、学校に行って夢を叶えたいと願うロヒンギャ難民の少年の話を聞く。教育を受ける権利を奪われている子ども達のことを知り、感想を共有する。（ペア・グループワーク）	・パワーポイント A(p1-p22) ・ワークシート ・紙風船 ・少年の写真（Instagram） ・動画『教育を諦めたくない ロヒンギャ難民ラシェッド君』（UNESCO）
3	『あってもいいちがい？あってはいけないちがい？～教育を受ける権利から考える～』 **●世界一大きな授業** SDGs ゴール 4 に焦点を当て、教育を受ける権利が守られるべき理由を知る。“ちがい”の背景を考察する。 	・以下のアクティビティを通して、教育をめぐる現状や課題を知る。なぜ質の高い教育は必要なのか？様々な要因で生じる“ちがい”はあっても良いものなのか？考えると同時に、自身の生活を見つめ直すきっかけとする。また、意見交換を通して、ものの見方や価値観が多様であるということも体感させる。 ①世界一大きな授業クイズ ②識字率の疑似体験 ③ちがいのちがい （グループワーク）	・パワーポイント A(p23-p44) ・ワークシート ・SDGs 資料（JNNE） ・SDGs カード（JICA） ・砂糖水 塩水 水 ・ボトルとラベル ・ちがいのちがいカード各グループに 12 枚 ・冊子『学校に行けないこどもたち』（JICA）

4	『アフリカと日本につながりはあるの？』 **●アフリカとのつながり** 両国が互いに与える影響について理解する。    **●タンザニアの子ども達とつながる**	・前回の復習をし、世界の諸問題の裏には SDGs が絡んでくることを確認する。 ・“つながり”をキーワードに、アンケート結果を共有する。 ・実物やワークシートを用いながら、アフリカとつながりのあるものを考える。それぞれのものがどのようにアフリカとつながっているのかを予測し、その背後に潜む問題点を考察する。 ・アフリカ大陸マップ（横浜 TICAD）を参考にしながら、つながりのあるものを確認する。答えを知った感想を共有する。 ・ある動画を 7 分間観る。日本とつながりのあるものが、現地ではどのような存在なのかを知り、問題意識を持たせる。輸入品の背後に起こりうる問題点を確認する。 ・気付かないだけで、私たちの生活はアフリカの資源に支えられており、「遠い」「つながりはない」と考えるのは、無責任であることに気付かせる。 ・草の根交流に向け、質問や伝えたいことを英語で考え、文をつくる。 ・つながりは、輸出入品だけではなく、「何かを話したい」「伝えたい」という“心のつながり”もあると伝える。 （グループワーク）	・パワーポイント B(p1-p26) ・ワークシート ・アフリカの品々（ゴマ、ルイボスティー、スマホ、コーヒー、香辛料など） ・実践資料集 p9-10（JICA） ・『知ってみよう！ふれてみよう！アフリカのこと』（TICAD7 横浜） ・映画『ダーウィンの悪夢』抜粋 ・SDGs カード（JICA） ・英和辞書 ・はさみ、のり、画用紙、折り紙、シール、写真、色ペンなど
5	『ポップアップカードで相手を笑顔にしよう』 **●タンザニアの子ども達とつながる**   	・前回の英文を今度はカードに書き込んでいく。カードは、思い思いに自由に作らせ、手にしたお友だちが開いて喜んでくれるように工夫する。自分のこと、学校のこと、住んでいる町のこと、日本文化（衣食住、祭り、習慣…）などを盛り込む。必ず相手に向けた質問も入れる。（グループ内、個人作業）  	・教員の試作品 ・英和辞書 ・はさみ、のり、画用紙、折り紙、シール、写真、色ペンなど

6 ・ 7	『もっと知ろう！アフリカのこと』 **●報告** タンザニアに行ってきたよ。みんなのカードを届けたよ！ **●アフリカを知ろう①～調査～** 自分たちでアフリカの国々を多面的に調べる。	・コーラヒル中等学校にて手作りカードを配布した様子を見せ、タンザニアからもカードが届くことを報告する。 ・この“つながり”を大事にし、関心を持ち続けることが大切だと伝える。研修の詳細にはまだ触れない。 ・導入として、明日から始まる TICAD を紹介する。 ・４人グループを作り、興味のあるアフリカの国を１つ選び、様々な側面からその国について調べる。 （グループワーク）	・現地の写真 ・パソコン ・ワークシート ・アフリカ大陸マップ(TICAD7 横浜) ・mundi２月号 p34-35(JICA) ・英和辞書
8 ・ 9	『もっと知ろう！アフリカのこと』 **●アフリカを知ろう②** **～議論・まとめ～** １つの国の中にも多様性や格差が存在することを知る。課題に対する解決策を考察する。	・前時で選んだ国の紹介、日本とのつながり、良さ、課題等をまとめ、その解決策についてグループで話し合う。 ・課題と SDGs との関連性を考える。 ・模造紙に発表で伝えたいことを効果的に英語でまとめ、原稿も英語で書く。 （グループワーク）	・ワークシート ・模造紙 ・マジック ・『東北か SDGs』(JICA) ・SDGs カード ・英和辞書
10 ・ 11	『自分が調べたアフリカの国を伝える』 **●アフリカを知ろう③～発表～** 相手に伝わるような発表を心掛ける。アフリカ諸国の多様性や自身の持つ固定観念、偏見に気付く。 	・１グループを発表者２名、聞き手２名に分け、聞き手が次々に他のグループを移動する形で発表を行う。 ・４分発表、２分質疑応答とする。 ・他グループの発表を聞きながら、自分の調べた国との共通点や相違点、そしてアフリカ諸国の多様性に気付く。 ・発表者は簡潔で分かりやすい発表を堂々と行う。少人数での反復で、発表に対する苦手意識を克服する。 ・届いた手紙をみんなに渡す。 （グループでのプレゼンテーション） 	・パワーポイント C(p1-p15) ・発表用ポスター ・ワークシート ・評価シート ・英和辞書 ・↓タンザニアからの手紙 〈発表会の様子〉

12	『脱固定観念・偏見』 **●アフリカを知ろう④** **～振り返り～** 世界を正しく捉えることの重要性を知る。  『アフリカを知ろう！』 自分の中で何か変化はありましたか？ →27人中25人の生徒が「はい」と回答 ・アフリカが遠い存在からより身近な存在になった ・タンザニアに友達ができたからぐっと近くなった ・アフリカに行ってみたいと思うようになった ・良いところもたくさんあることに気付いた ・自分も参加し、考えられる事柄だと思えた ・少し怖いイメージがあったが、優しい人が多いと知った  『アフリカを知ろう！』 自分の中で何か変化はありましたか？ →27人中25人の生徒が「はい」と回答 ・「何ができるか？」と心の底から考えるようになった ・貧富の差の原因が先進国にある事実を知った ・自分たちの力で知って考えを持つことも大事だと思った ・意外な所で日本はアフリカに助けられていると知った ・もっと知らないと！と思うようになった ・全ての国が恵まれていないわけではないことに気付いた（格差の存在）  他のグループの発表を聞いて、何か気づいたことはありましたか？ ・寿命が38歳という国があることに一番驚いた ・どの国の人たちにも"笑顔"があった ・アフリカには影だけではなく、良い部分もたくさんある ・貧困、水、トイレ、教育の問題が目立った ・同じアフリカでも、国ごとに異なり、個性が溢れている ・日本と似ているところがあった。いつか伝えたい。 ・高価なダイヤモンドを持っている国でも貧しいのか！？ ・発達していない所が多いが、それ以上の魅力もある ・農村と都市部での差があることが分かった	・前回、みんなからもらった感想や気付きを共有する。 ・振り返りとして、『factfulness』に掲載されているギャップマインダーテスト（13 問）を行う。 ・Gapminder でアフリカ諸国の状況をデータで確認する。 （ペアワーク） 『FACTFULNESS』 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣 Hans Roslingさん FACT FULNESS 賢い人ほど世界の真実を知らない 	・パワーポイント D（p1-p42） ・ワークシート ・『factfulness』（＊正解数は、チンパンジー4.29 尚絅生 3.15） ・www.gapminder.org/whc
13 ・ 14	『Karibu!タンザニアへ』 **●「You は何しにタンザニアへ？」** 授業者が現地で驚いたことをもとにして作ったクイズを行い、タンザニアについて知識を深める。抱いていたイメージとのギャップにも気付く。 	・新しいグループのメンバーとアイスブレーキング。（P4C（後述）） ・写真、動画、実物などを用いながらタンザニアについて楽しく学び、授業者が体験してきたことを共有する。 ・急成長するダルエスサラームの様子と 190ｋｍ内陸に入ったモロゴロの様子を比較する。国内での格差や急成長を遂げるタンザニアの現状を知る。 ・多民族、多宗教共生の姿に気付く。 ・タンザニアクイズ 10 問を通して、タンザニアの文化について知る。 （グループワーク）	・パワーポイント E（p1-p80） ・ワークシート ・マジック ・画用紙 ・ぬいぐるみ P4C ・写真、動画、現地で収集した衣服、カンガ、辞書、絵本、新聞、台所用品、Udongo、ティンガティンガ、スパイス、切手、お金、エコバックなど
15 ・ 16	『タンザニアの学校を覗いてみよう』 **●「ちがいのちがい」** 主にタンザニアの教育現場の様々な写真を観察し、日本との共通点や違い、その背景にある事柄を考察する。 	・フォトランゲージ（学校の写真 33 枚）でその状況や人物の心情を想像し、グループで気付きを共有する。 ・日本との違いや共通点を見つけて 4 つに分類する。 ・「あってはならないちがい」を SDGs と関連付ける。 ・話し合いながら、タンザニアと日本の抱える課題の達成度を「ダイヤモンドランキング」する。 ・実際、データで両国の SDGs の達成度を確認し、自身の思い込みや SDGs は開発途上国だけの目標ではないこと	・パワーポイント E（p81-p90） ・ワークシート ・マジック ・付箋 ・丸いシール ・ちがいのちがい台紙 ・SDGs カード ・The Sustainable Development Report 2018

		に気付く。また、日本よりもタンザニアの達成度が高い項目、またはその逆もあるため、互いに学び合える関係だと再確認する。 （グループワーク）	
17 ・ 18 本時	『相手の“幸せ”を実現する支援の在り方とは？』 **● 相手の“幸せ”を実現する支援の在り方とは？** タンザニア人の幸せ自分の幸せとは何かを考える。そして、“Tanzanian First”という考え方から真に相手を幸せにする支援の特徴を探る。  	・自分の宝物とそれを選んだ理由を発表する。（P4C） ・ちがいのちがいを振り返る。特に誤解していたもの、あってはいけないと生徒が判断したものに焦点を当て、タンザニア人と私たちの生活や認識の違いや課題を知る。 ・相手の幸せ、自分の幸せとは何かを考える。自分の幸福度を５段階で表し、そう感じる理由を共有する。 ・タンザニアの生徒に行ったインタビュー内容や授業者がタンザニア人との交流で気付いたこと等を紹介する。 ・タンザニア人は幸せだと話す生徒たちに次の問いかけをする。→「貧しいけれど幸せならば、支援はいらない？」 ・前回用いた写真の裏にある事実を伝える。フォトランゲージでは見逃していた情報の存在に気付く。 ・タンクローリー横転事故について伝え、日本では救える命がタンザニアでは失われている現状を知る。 ・相手を真に理解した支援とは何か？具体的なシチュエーションで、シナリオの続きをアドリブする。【資料①】 ・様々な立場にある人々の心情を疑似体験し、ロールプレイを通して演者と聴衆がそれぞれどのように感じたのかを共有し、支援の在り方を議論する。 ・タンザニアで活躍する日本人の活動例をいくつか紹介し、共通点を探る。 ・相手を真に幸せにする“支援”の特徴や留意点を考える。 （グループワーク）（ロールプレイ）	・パワーポイント F (p1-p113) ・ワークシート ・ぬいぐるみ P4C ・現地の動画 ・ニュース動画 ・台本シート ・小道具（カンガ、服、カバン、オレンジジュース、紙コップ、筆箱、椅子、絵…）

19	『変化を起こして誰かを幸せにしよう』 **●尚絅から変えていく！** 身近なところで起きている問題、困っている人に気付き、解決するために必要な尚絅生の意識改革を提案する。 **●啓蒙ポスター作成** **『尚絅生の心を動かす』** 	・自分の身の回りに困っている人はいないだろうか？変えるべき状況はないだろうか？ ・誰かを支援するために、身近なところに“起こすべき変化”はないだろうか。具体的な課題点と支援策を挙げる。 ・関係者へのヒアリングを通して、自分の考えた支援策の修正を行う。 ・誰/何のために、どう尚絅生の意識改革をするのかを明確にする。 ・尚絅生の心を動かし、さらに行動の変化にもつながるような文言やデザインを工夫する。 （グループワーク、個人作業）	・ワークシート ・啓蒙ポスター例（授業者作成） ・画用紙 ・マジック
20	『「尚絅生の心を動かす」啓蒙ポスター発表会』 **●啓蒙ポスター発表会** **『尚絅生の心を動かす』** 	・発表原稿は事前に暗記して臨む。 ・啓蒙ポスターの目的とヒアリングを経て工夫した点などを発表する。 ・互いの問題意識とアイディアを共有する。 ・校内に掲示する。 （個人でのプレゼンテーション）  	・ワークシート ・テープ ・投票シール ・ふせん ・校長先生をゲストに呼ぶ 〈発表会の様子〉 

【6】本時の展開（17・18 時間目）
本時のねらい：相手の“幸せ”を実現する支援の在り方とは？～“Tanzanian First”から学ぶ”～

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 5 分	・自分の宝物とそれを選んだ理由を発表する。（P4C）	後でタンザニアの生徒と比較させる。	・パワーポイント F (p1-p113) ・ワークシート
展開 1 40 分	・ちがいのちがいを振り返る。特に誤解していたもの、あってはいけないと生徒が判断したものに焦点を当て、タンザニア人と私たちの生活や認識の違いや課題を知る。 ・相手の幸せ、自分の幸せとは何かを考える。自分の幸福度を 5 段階で表し、そう感じる理由を共有する。 ・タンザニアの生徒に行ったインタビュー内容や授業者がタンザニア人との交流で気付いたこと等を紹介する。 ・タンザニア人は幸せだと話す生徒たちに次の問いかけをする。→「貧しいけれど幸せならば、支援はいらない？」 ・前回用いた写真の裏にある事実を伝える。フォトランゲージでは見逃していた情報の存在に気付く。 ・8 月 10 日のタンクローリー横転事故について伝え、日本では救える命がタンザニアでは失われている現状を知る。	自分の価値観で、相手の気持ちやニーズを決めつけてしまう危険性に気付かせる。 笑顔や前向きな生き方ばかりに注目し、課題点を軽視してしまわないように気をつける。	・ぬいぐるみ P4C ・ニュース動画 ・台本シート【資料 1】 ・小道具（カンガ、服、カバン、オレンジジュース、紙コップ、筆箱、椅子、絵…）
展開 2 35 分	・相手を真に理解した支援とは何か？ 具体的なシチュエーションで、シナリオの続きをアドリブする。【資料①】（ロールプレイ） ・様々な立場にある人々の心情を疑似体験し、ロールプレイを通して演者と聴衆がそれぞれどのように感じたのかを共有し、支援の在り方を議論する。	自分の意見はもたせた上で、あえてランダムに役を割り振って役になり切らせる。アドリブで必ず結論までもっていかせる。	
まとめ 10 分	・タンザニアで活躍する日本人の活動例をいくつか紹介し、共通点を探る。 ・相手を真に幸せにする“支援”の特徴や留意点を考える。（グループワーク）	実際の支援事例を紹介することによって“Tanzanian First”の意味を生徒達から引き出す。	

【7】評価規準に基づく本時の評価方法

①知識及び技能

・「ちがいのちがい」を振り返り、自身の思い込みや見えていない側面に気付くことができる。

・タンザニアで支援活動を行っている方々の事例を知り、その特徴を具体的に挙げることができる。

（SDGs 達成に向けて自ら調べ、世界の現状を知る）

②思考力、判断力、表現力等

・多様な価値観や生き方に共感し、かつ自身の考えを積極的に話すことができる。

・対話や議論を通して、課題の原因とその解決策を考察することができる。

（SDGs 達成に向けて背景を考察し、解決策を考える）

③学びに向かう力、人間性等

・自分は世界中の仲間と共に SDGs を達成するべき一員なのだと自覚することができる。

・様々な立場にいる当事者の心情を想像し、寄り添って物ごとを考えることができる。

・誰もが幸せになるための支援の在り方を、自分の言葉で説明することができる。

（SDGs 達成に向けて仲間と共に主体的に行動する）

【8】学習方法及び外部との連携

〈学習方法〉

・P4C…philosophy for children の略。自由に話してもいい、誰かが必ず聞いてくれるという安心感が生まれるため、雰囲気づくりとして役立った。

・フォトランゲージ…生徒が自由に状況や人物の心情を想像して話すため、誰でも参加でき、教員の知識の押し付けにならない。細やかに観察する生徒も多く、予想外の気付きを私に与えてくれた。

・ちがいのちがい…答えが一つではないので、分類する際に活発に議論しながらゲーム感覚で取り組みやすいと感じた。

・ポップアップカード作り…普段は話合いや発表が苦手で遠慮がちな生徒も、独創的なカードを作って生き生きと参加できていた。タンザニアの友だちが自分のカードを手にする様子を想像しながら、想いを込めて熱心に作る姿が印象に残った。実感のある交流は、生徒をキラキラさせると思った。

・グループ発表…私が一方的にタンザニアの話を始めては心に残らないと思い、急遽アフリカについて自分たちで調べて学び合う時間を設けた。自分で発見した気付きは特別で、いつもより堂々と誇らしげだった。

・ダイヤモンドランキング…JICA でいただいた SDGs カードを使った。生徒たちが実際にカードを動かしながら議論できるので分かりやすく、他の班との比較にも便利だった。

・ロールプレイ…役になり切ることで、その人の気持ちをよりリアルに想像し、設定状況を把握できると感じた。書面や口先だけでは分からない感情を実体験できるので生徒は心が揺さぶられたようだ。

・インタビューによる調査…「支援」をする際に、相手の気持ちやニーズが置いてきぼりになってはいけないという話をした後だったので、インタビューでそのことを実際に確認できたようだった。授業外の場所で誰かの意見を聞くという貴重な機会にもなった。

・啓蒙ポスター作成…あえて個人で取り組ませた。社会を変えるということは、人の心を動かし、人の行動を変えるということ。自分の想いを効果的に波及させる難しさ、必要な工夫を互いに学び合えるようにした。

〈外部との連携〉

・タンザニア在住の青年海外協力隊の方々…授業をする中で出てきた生徒の疑問点にたくさん答えていただいた。生徒に向けてお手紙もいただき、貴重なメッセージを日本の生徒に伝えることができた。

【9】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組み

・１か月間図書室の展示スペースをお借りして、現地で入手した衣装、絵本、食品、絵画などを展示した。また、タンザニア豆知識やスワヒリ語などをまとめた模造紙を貼ったり、写真を飾ったりした。その際、図書館の司書さんがアフリカや国際協力などに関する本を選出し、ディスプレイした。

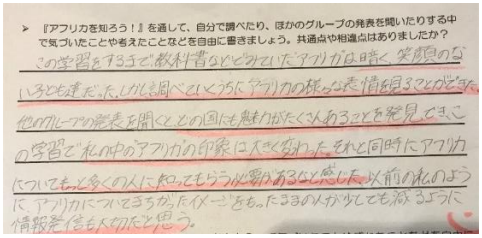
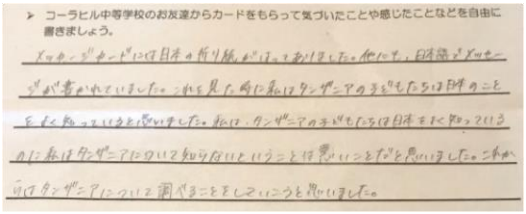
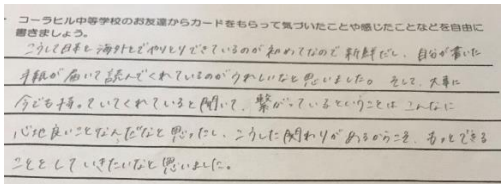
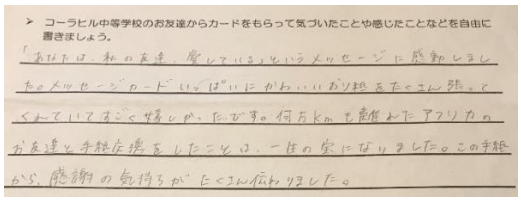
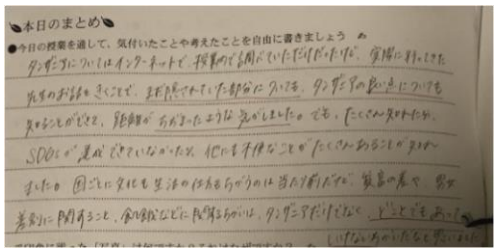
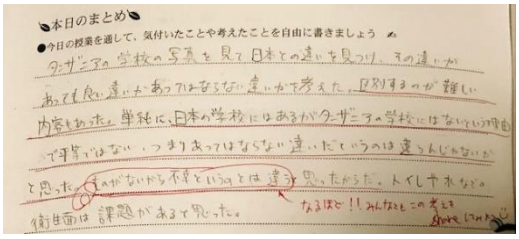
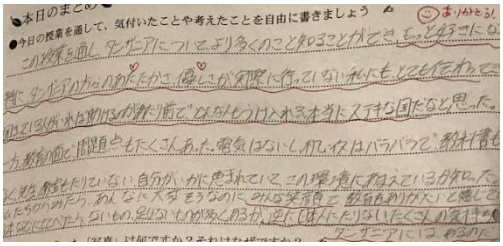
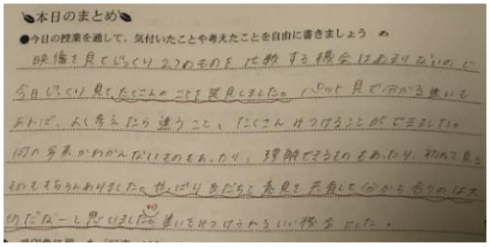
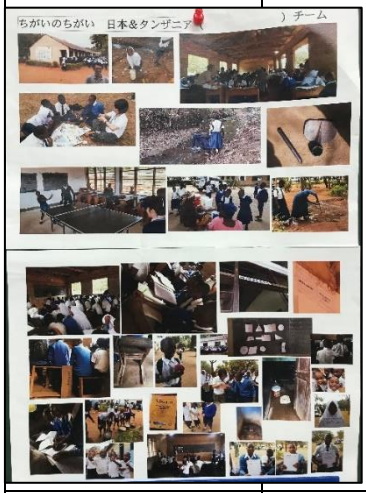
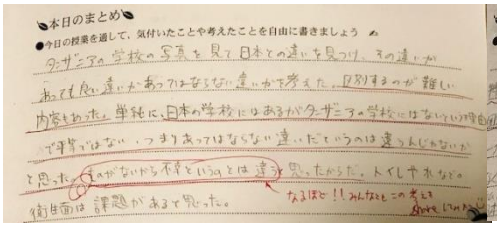
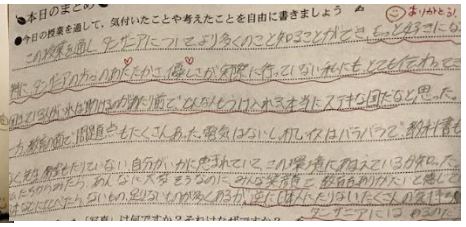
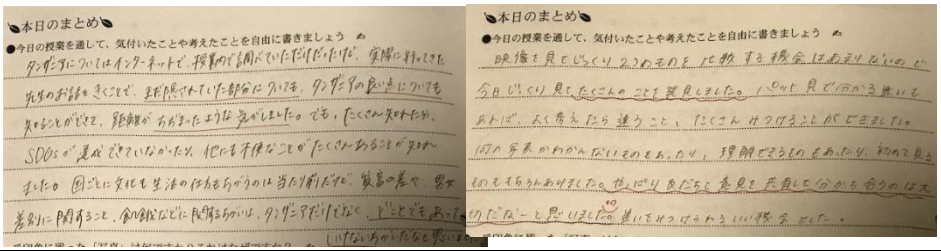
・図書館で使用した模造紙は職員室前の掲示板（自分のクラスの廊下）に継続して展示している。

・本校のホームページや学院誌に記事を掲載していただいた。

・研究授業として誰でも自由に見学できる機会を設けた。

【自己評価】

【10】苦労した点	・時間割変更が毎回必要だったこと。自身の英語の授業と両立して PBL II で授業を行うのは大変だったが、多くの先生方の協力で何とか授業数を確保できた。 ・PBL II は選択制なので複数クラスの生徒がこの時間だけ一緒に学ぶ。そのため遠慮して最初はあまり意見交換が活発ではなかったこと。 ・現地に行っていない先生もリアルに授業ができるように、パワーポイントを詳しく作ったこと。
【11】改善点	・ロールプレイは、当初は最初にグループで原稿を作ってから発表という形をとっていたが、うまくいかなかったので変更し、最初から役をはめ、途中までの原稿だけを渡してその後はアドリブで話を続ける形にしたこと。 ・より現実的に起こり得るトラブルも想定しながら演技ができるため、ロールプレイの役に、「近所の人」「地域の有力者」も入れた方が良いこと。場合によっては父と母のジェンダー問題にも触れることができること。 ・毎回、生徒たちがすてきな感想や疑問点を書いてくれるのに、クラスのみんなに全てを紹介することができなかったこと。次の授業の最初に、感想を何枚か読んだりして振り返りをする時間をもっと取りたかった。
【12】成果が出た点	・本題に入る前に P4C を通して自由に対話できる雰囲気づくりをしたこと。 ・中間にグループ発表を組み込んだことで、クラスに連帯感が生まれ、達成感から生徒に自信を持たせることができたこと。同じ発表を 6 回行わせることで、人前で話すことへの抵抗も緩和できたこと。 ・早い段階で自身の持つ固定観念や偏見にも目を向けさせたことで、本時の前に一部の情報で物ごとを判断する危険性を伝えられたこと。

【13】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	●「アフリカを知ろう」  『アフリカを知ろう！』を通して、自分で調べたり、ほかのグループの発表を聞いたりする中で気づいたことや考えたことなどを自由に書きましょう。共通点や相違点はありましたか？ この学習をする前で教科書などでみていたアフリカは暗く、笑顔のない子ども達だった。しかし調べていくうちにアフリカの様々な表情を見ることができた。他のグループの発表を聞くことの中にも魅力がたくさんあることを発見できた。この学習で私の中のアフリカの印象に大きく変わった。それと同時にアフリカについてもっと多くの人に知ってもらう必要があるなと感じた。以前の私のように、アフリカについてきちがたイメージをもったままの人が少しでも減るように情報発信も大切だと思う。  コーラヒル中等学校のお友達からカードをもらって気づいたことや感じたことなどを自由に書きましょう。 メッセージカードには日本の折り紙がはってありました。他にも、日語でメッセージが書かれていました。これを見た時に私はタンザニアの子どもたちは日本のことをよく知っていると思いました。私は、タンザニアの子どもたちは日本をよく知っているのに私はタンザニアについて知らないということは悪いことだと思いました。これから私はタンザニアについて調べることをしていこうと思いました。  コーラヒル中等学校のお友達からカードをもらって気づいたことや感じたことなどを自由に書きましょう。 こうして日本と海外とでやりとりできているのが初めてなので新鮮だと、自分が書いた手紙が届いて読んでくれているのがうれしいなと思いました。そして、大事に今も持っていてくれていると聞いて、繋がっているということはこんなにいいことなんだなと思ったし、こうした関わりがあるのうこそ、もっとできることをしていきたいなと思いました。  コーラヒル中等学校のお友達からカードをもらって気づいたことや感じたことなどを自由に書きましょう。 「あなたは、私の友達、覚えているよというメッセージに感動しました。メッセージカードいっぱいにかわいいおり紙をたくさん貼ってくれていてすごく嬉しかったです。何万km も離れたアフリカのお友達と手紙交換をしたことは、一生の宝になりました。この手紙から、感謝の気持ちがたくさん伝わりました。 ●「You は何しにタンザニアへ？」  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう タンザニアについてはインターネットで、授業のため調べていただけだったが、実際に行ってきた先生のお話をきくことで、まだ限られていた部分についても、タンザニアの良さについても知ることができて、距離がちかまったような気がしました。でも、たくさん知ったから、SDGsが進めできていなかったり、他にも手伝なことがたくさんあることが知れました。国ごとに文化も生活のしかたもちがうのは当たり前だけど、貧富の差や、男女差別に関すること、金銭などに関するちがいは、タンザニアだけでなく、どこでもあったし、いないちがいだなと思いました。  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう タンザニアの学校の写真を見て日本との違いを見つけ、その違いがあっても良い違いかあってはならない違いかを考えた。区別するのが難しい内容もあった。単純に、日本の学校にはあるがタンザニアの学校にはないという理由で平等ではない。つまりあってはならない違いだというのは違うんじゃないかと思った。なぜないから不平というのは違う思ったからだ。トイレ、手洗などの衛生面は課題があると思った。 なるほど!! みんなとこの考えも  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう ありがとうございます この授業を通して、タンザニアについてより多くのこと知ることができ、もっと好きになった。 実際にタンザニアの方々のあたたかさ、優しさが実際に行ってないわたしにもとてもたくさんつたわってきました。 国ごとの違いや生活のしかたがちがう面でなんかもうけいれる事ができずにいる国だなと思った。 衛生面と問題点もたくさんあった。電気はないし、トイレはバラバラで、教科書も タンザニアには  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう 映像を見ていろいろなものを比較する機会はあまりないので今日いろいろ見たたくさんのことを発見しました。パワポ見て分かる難しいもあれば、よく考えたら違うこと、たくさんみつけることができました。何の写真かわからないものもあったり、理解できるものもあったり、初めて見るものもたくさんありました。やっぱりみんなと意見を共有して分からないものは大切だなーと思いました。難しいもみつけられるいい機会でした。 ●「ちがいのちがい」  「ちがいのちがい　日本&タンザニア　　）チーム  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう タンザニアの学校の写真を見て日本との違いを見つけ、その違いがあっても良い違いかあってはならない違いかを考えた。区別するのが難しい内容もあった。単純に、日本の学校にはあるがタンザニアの学校にはないという理由で平等ではない。つまりあってはならない違いだというのは違うんじゃないかと思った。なぜないから不平というのは違う思ったからだ。トイレ、手洗などの衛生面は課題があると思った。 なるほど!! みんなとこの考えも  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう ありがとうございます この授業を通して、タンザニアについてより多くのこと知ることができ、もっと好きになった。 実際にタンザニアの方々のあたたかさ、優しさが実際に行ってないわたしにもとてもたくさんつたわってきました。 国ごとの違いや生活のしかたがちがう面でなんかもうけいれる事ができずにいる国だなと思った。 衛生面と問題点もたくさんあった。電気はないし、トイレはバラバラで、教科書も タンザニアには  本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう タンザニアについてはインターネットで、授業のため調べていただけだったが、実際に行ってきた先生のお話をきくことで、まだ限られていた部分についても、タンザニアの良さについても知ることができて、距離がちかまったような気がしました。でも、たくさん知ったから、SDGsが進めできていなかったり、他にも手伝なことがたくさんあることが知れました。国ごとに文化も生活のしかたもちがうのは当たり前だけど、貧富の差や、男女差別に関すること、金銭などに関するちがいは、タンザニアだけでなく、どこでもあったし、いないちがいだなと思いました。 本日のまとめ ●今日の授業を通して、気付いたことや考えたことを自由に書きましょう 映像を見ていろいろなものを比較する機会はあまりないので今日いろいろ見たたくさんのことを発見しました。パワポ見て分かる難しいもあれば、よく考えたら違うこと、たくさんみつけることができました。何の写真かわからないものもあったり、理解できるものもあったり、初めて見るものもたくさんありました。やっぱりみんなと意見を共有して分からないものは大切だなーと思いました。難しいもみつけられるいい機会でした。
【14】授業者による自由記述	授業を重ねるごとに、生徒たちが世界を自分に引き付けて捉えるようになったことが一番嬉しかった。伝えたいこと、感じてほしいことがたくさんありすぎて、つめこみ過ぎてしまったので、もっとひとつひとつに時間をかけても良いと思う。自分自身が現地で心を揺さぶられた出来事をそのまま教材にできたのが良かった。また、どんなに学んでも私も生徒もまだ全てを知ったわけではないことを自覚させ、生徒が授業後も考え続けられるように工夫することが重要だと思う。

●本時の主な資料・生徒の様子

アクティビティー

こんな時、皆さんならどうしますか？

皆さんは今、海外研修でタンザニアを訪れています。
1か月間、地元の公立学校に通いながら、タンザニアの歴史や文化、スワヒリ語などを学ぶ予定です。登校して5日目、仲良くなったタンザニア人の友だちと一緒に、隣の席のDavid君宅に遊びに行くことになりました。一緒にサッカーをし、楽しい時間を過ごしました。みんなで話をしているとDavid君からこんなことを言われました。

「〇〇さんの筆箱の中には、カラフルなペンがたくさん入っているよね。ぼくは黒いペンしかもっていないんだ。ぼくには学校に行っていない妹がいる。絵を描くのが好きなんだ。妹のためにそれをくれないかな？」

〈ロールプレイの様子〉

【資料①】

『相手の幸せを実現する支援とは？～Tanzanian First から考える～』

アドリブ用台本

あなたは、David 君　です。
なりきって演じよう！

●6番目に発言してください（父の後）●

David：「学生Ａさんの筆箱の中には、カラフルなペンがたくさん入っているよね。ぼくは黒いペンしかもっていないんだ。ぼくには学校に行っていない妹がいる。絵を描くのが好きなんだ。妹のためにそれをくれないかな？」

（日本人学生Ｂの発言後は、以下を念頭に入れて、自由にアドリブしてください）

＊日本人学生Ａ、Ｂとはすでに仲良し。
＊17 歳。日本人学生と同い年。
＊夢は医者。母のように病気で苦しむ人を助けたい。
＊人生を左右する国家試験（4750 円）を控えている。
＊母の代わりに学校を休んで父の手伝いをすることもある。
＊妹に勉強を教えたいが、電気がないため帰宅後では暗くて何もできない。
＊自分のせいで小学校に通えない妹を導ばはたい！
＊自分には妹にカラーペンを買うお金はないから、日本人学生からカラーペンをもらいたい。

『相手の幸せを実現する支援とは？～Tanzanian First から考える～』

アドリブ用台本

あなたは、日本人学生Ａです。
なりきって演じよう！

●3番目に発言してください（父の後）●

【父 Jacob から手渡されたオレンジジュースを飲んでから】
：「（ゴクゴクッ）こんなに美味しいジュースを飲んだことないよ。David たちは幸せだな～。」

（日本人学生Ｂの発言後は、以下を念頭に入れて、自由にアドリブしてください）

＊カラーペンもお金もあげるべきではないと考えている。
＊反対する理由も入れながら、他のメンバーを説得してください！
＊小遣いとして２万円持参している。（現地の小学校進学費 3500 円）

このような台本をタンザニア人の家族（David、妹、父、母）、日本人学生Ａ、日本人学生Ｂの合計６種類準備した。日本人学生ＡとＢは互いに異なる意見をもたせ、アドリブしながらどう変容するかを観察する。授業後に、登場人物の中にその地域の「有力者」と「近所の人」をいれると良いという助言をいただいたので、次回は入れてみたい。“嫉妬”“格差”という点でロールプレイが展開されると思う。

●生徒の感想

・タンザニア人がタンザニアで自分たちの力でできることを教えることが良い支援だと分かった。
・日本の方が SDGs 達成度は高いのに幸せ度は低いって不思議。それは１日１日をどう過ごしているか、全力で過ごしているかの違いかなと思った。

・デイビット君と対等な友達だったのに、「支援」となると急に差ができてしまうような気がした。物をあげるのではなく、ずっと先も続いていけるように、方法を教えるのが大切なのだと分かった。
・対等な立場で一緒に頑張る意識が大切なのだと思う。
・演技が上手だった。なりきっていた。支援は、その場にいる誰も不幸になっていないから悪いことではないと思うが、デイビット君の親であったり、お金で解決していたりすることを考えると、物以外での支援も何かあったのではないかと思った。
・私たちは、貧困と聞くと漠然と「支援しなければ」「与えなければ」と考えてしまいがちだ。今日の授業で見直すことができた。「ただ与えるだけでは幸せではない。」とても胸に刺さった。
・色んな人の意見を聞いたら、簡単にあげてしまうことは良くないなと思った。
・クラスの子たちがやった演技の中で引っかかる部分があった。現実だとトラブルになりかねない。
・日本でうまくいっていることをタンザニアの土地に適した形で活かすことが大事。
・とても難しかった。デイビット君は嬉しいだろう。でもお父さんは反対の意見を持っている。色々な思いをもっているから難しかった。
・タンザニア人と日本人の幸せの基準が違う。そもそも幸せとは何かを考えることができた。
・タンザニア人は、私たちが思っていたものと違うものを SDGs において課題だと思っていた。
・タンザニアには不便なところも多いのに前向きに物事を捉えているのが本当にすごいなと思ったし、何気ないことで悩んだりしている自分が情けなく思えてくるぐらいでした。
・しっかり全力で毎日を生きられたら、自分の幸せ度を“５”にしようと思ったから、毎日毎日しっかり生きていこうと思った。
・自分たちの国が貧しくても、自分の国を愛し、夢を持っている子ども達を見てとても素敵だと思った。改めて自分の夢に向かって頑張ろうという気持ちになった。

参考資料：
・『学校に行けない子どもたち』JICA
・『mundi　2019 年 2 月号』JICA
・『実践資料集 p9-p10』JICA
・『東北から SDGs』JICA
・『私たちが目指す世界～2030 までの 17 の目標～』JICA
・「世界一大きな授業」JNNE
・TICAD7 横浜開催ウェブサイト
・『レヌカの学び―自分の中の異文化に出会う』DEAR
・『「援助」する前に考えよう』DEAR
・『factfulness』ハンス・ロスリング著
・動画『教育を諦めたくない　ロヒンギャ難民ラシェッド君』UNESCO
・映画『ダーウィンの悪夢』フーベルト・ザウパー監督
・ニュース「タンクローリー爆発６２名死亡 タンザニア 2019.8.10.」日テレ NEWS24
・The Sustainable Development Report2019
・2018 年度　教師海外研修報告書